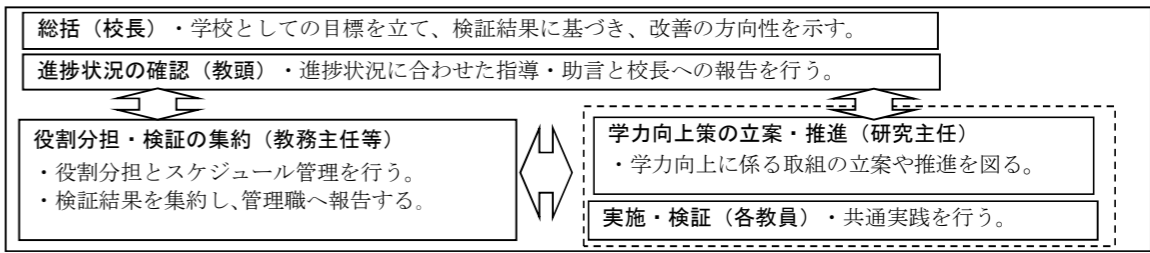


研究主題

副題



	学期	児童生徒の現状・課題	原因・要因	重点的に行う取組	検証の方法と指標		結果の検証	
					児童生徒の状況	教師の指導・取組の状況		
授業で行う取組	一学期	・問題文や友達の考えなどを十分に理解しないまま、授業に参加している児童がいる。 ・分からないことを自ら質問したり調べたりすることに対して苦手とする児童がいる。 ・国や県の学力調査や12月の5年生の評価問題において、算数では問題の意味の把握や算数用語の理解や式、図や数直線を使つての説明に課題が見られた。	・教員の問い返しや児童の考えをつないでいく手立てが不足しているため、児童全員の理解が十分でないまま授業を進めてしまうことがある。 ・友達の考え等を十分に理解しながら聴くこと、友達に自分の考えを分かりやすく話すことの経験が不足している。	「学習のめあてをつかみます」 ・授業の中に、言葉や問題の意味を捉えたり、確認の場面を入れる。 「自分の考えを伝えあいます」 ・授業の中で友達の考えを説明する時間をとったり、問い返したり、他児の考えとつなげて説明したりする場面を作る。	方法	(1) 「分からないことを質問したり、調べたりすることができたか」 (2) 「友達の考えを説明することができたか」 (児童アンケート)	(1) 「授業の中で言葉や問題の意味をとらえたり確認の場面を入れたか」 (2) 「友達の考えを説明する機会を児童全員につくったか」	
					指標	「できた」の割合 80%以上	「できた」の割合 90%以上	
					結果			
	二学期				方法			
					指標			
					結果			
	三学期				方法			
					指標			
					結果			
授業以外で行う取組		・国、県の学力調査や12月評価問題では、国語では、国語では同音異義語の漢字の書き取り、主述の整った文章を書くことや条件に沿って要約して書くこと、算数では、四則計算や計算のきまりなどの基礎基本の定着に課題が見られる児童がいる。	・国語や算数の基礎基本を定着させる時間が不十分。 ・教師間での「基礎基本」のとらえに、ずれがある。	・個々のつまずきの分析と個に応じた手立てをとる。 ・当該学年で身につけておかなければいけない学習事項を共通理解する。	方法	(1) 小テストを行い、基準に満たない児童は、個別指導後伸びがあったか。	(1) 「小テストで基準に達成しなかった児童のつまずきを分析し、個に応じた手立てをとったか」 (教員アンケート)	1学期の検証
					指標	(1) 個別指導を行った児童のうち、伸びが見られた児童の数90%以上	(1) 基準に達成していない児童のうち、個に応じた手立てをとった児童の数90%以上	2学期の検証
					結果	1学期の結果	1学期の結果	
						2学期の結果	2学期の結果	